

活躍する同窓の姿



兵庫県水泳連盟
中西進 会長

今回、ご紹介させていただく中西進さんは、日本体育大学水泳部OBで1978年（昭和53年）3月に日本体育大学をご卒業後、株式会社三菱倉庫が運営する高砂市のサンモールスイミングクラブに奉職され、2015年（平成27年）まで水泳指導とクラブ経営に携わってこられました。

現在は、兵庫県水泳連盟会長として水泳及び水泳競技の健全な普及と発展、競技力向上などに取り組み、兵庫県スポーツ協会副会長として県民のスポーツ振興や健康の増進などに関わるなど広く活動されています。

学生時代から競泳の自由形選手として国民体育大会（現国民スポーツ大会）などで活躍され、その後も水泳連盟の競技力向上委員長、理事長などを歴任し、兵庫の水泳界を牽引され、そのご経験からスポーツの魅力やスポーツが豊かで健全な社会づくりに大きく関わっていることなどたくさんのお話を聞かせて頂くことができました。

の松尾煌一氏が水泳連盟会長に就かれた際には、そのご縁を大切にご自身の仕事と並行して水泳連盟の事に誠心誠意、励まされたそうです。水泳を通じた人のつながりが、今につながっているとおっしゃっていました。

今年五月、日体大水泳部OBであるプール設備会社パワーエレメントの川島章男社長と兵庫県水泳連盟の渚野正基副会長の呼びかけで中西会長を囲むOB会が三宮で開かれ、水泳部OBの筆者も参加し、会長就任のお祝いをしました（写真参照）。兵庫県の



他、北海道、愛知、岡山、大阪、京都からも参加者があり、先輩・同輩・後輩の関係を大切にしている日体大の人のつながりの深さを改めて知ることができました。

◆水泳を通じた地域づくり◆
昭和五十三年にサンモールスイミングクラブが開業し、働き始めた頃は、スイミングクラブが全国的に見ても、まだ珍しい時代であり、社会体育、市民スポーツの草創期でもあったそうです。

高砂市内にスイミングクラブができたことで、水泳を通じて、地域の子どもの体力づくりや泳ぐことの楽しさを体験できる環境が整い、水泳はケガや体への負担も少なく、呼吸を意識しないといけないスポーツのため、大人も水泳に親しみ、健康増進を求める高齢者の参加も増え続け、サンモールスイミングクラブ

は、スポーツに親しむ文化を育み、健全で豊かな地域づくりに大きく貢献していたそうです。

◆スポーツへの新しい関わり方◆

スイミングクラブが開業したことで市内の水泳競技大会も活発になり、大会運営は、中西さんが中心となってスイミングクラブ職員や水泳に親しむ市民の皆さん、大工さんなど水泳が大好きな市民が競技員の資格を取得し、大会を支えるといった市民参加型の運営が現在も続いています。毎夏、高砂市民プールで開催の高砂選手権大会では中西さんの発想で、金・銀・銅の色で飾った表彰状など、奇抜なアイデアでたくさんの方が競技会に参加するようになり、応援も活気を帯び、「する・みる・知る・支える」といったスポーツへの新しい関わり方の先駆けになったと考えます。

◆可能性を広げる選手の育成◆

開業当初から、水泳に親しむ人々を増やし、水泳の裾野を広げていくことを目的にスイミングクラブ経営に携わる中で、選手の育成にも力を注がれてきました。選手に教え込むのではなく考えさせる指導を追求しながら、科学的で合理的な中西コーチの愛情豊かな指導によって全国大会で活躍する選手がどんどんと生まれ、2000年シドニーオリンピック400mメドレーリレー銅メダリストの大西順子選手もこのプールで小さい頃から練習に励み、水泳選手としての道が開かれました。サンモールスイミングクラブで水泳に親しみ、目標にチャレンジする楽しさなどスポーツの魅力を知ったことを土台に他競技で活躍した選手も多く、

大相撲の妙義龍（日体大OB・高砂市出身）をはじめ箱根駅伝などで活躍した選手も数多くいるそうです。

スイミングクラブで培った基礎づくりがいろいろんな方面でモチベーションを高め、資質や能力を大きく広げていることにつながったと推察します。

◆垣根を超えた情報提供の成果◆

中西さんが元々、教員志望であったため、学校の部活動に対しての理解が深く、冬場は学校のプールで泳ぐことができない市内の中学校や高校の水泳部にプールを開放し、スイミングクラブと中高水泳部との合同練習を行うなど垣根を超えた取組で市内水泳部の活動が活性化し、地元の中学校や高校が全国大会の常連校となっていました。また、中西さんが全国の中央合宿に参加された際には、中学校・高校の指導者に練習メニュー、食事メニュー、コーチング手法など新しく手に入れた情報を惜しみなく提供し、市内全体で競技力向上を図ることを考え発信されたそうです。豊かな情報の共有で地域のスポーツ熱はどんどんと高められ、小さな町、高砂からスポーツを通じてたくさんの人財が育成され大きな成果につながったことを確信します。



◆人のつながりがことのはじまり◆

日体大卒業を控えた頃、当時、兵庫県水泳連盟理事長であった松尾煌一氏（日体専卒・元灘高校教員）から新しく高砂市内に開業するサンモールスイミングクラブへの就職についてお声かけがあり、社会体育の道を選ばれたそうです。前述

【編集後記】中西さんが人や社会の為に尽くされてきたお話を聞かせて頂き、スポーツの素晴らしさを感じることができました。今後も中西さんのお活躍を願って結びとさせていただきます。令和六年十月